

伝えよう つながろう 夢に向かって

NO.5 (2023.9.4)

学校運営協議会に生徒が参加！

9月4日月曜日、令和5年度第1回学校運営協議会を開催しました。今回のテーマは、「浜田ろう学校の価値を高めるための取組～それぞれの立場での参画～」です。7名の委員の皆様とともに、本校高等部3年の生徒も参加し、意見交換をしました。

□高3生の発表

『～共生社会にむけて～お互いに尊重し合うことのできる社会を築くために』をテーマに、「浜田魅力化フェスタ」「手話講座 in 江津東小&サマースクール」の取組と活動を通して考えたことを発表しました。

活動を通して

ろう者は耳が聞こえないだけで、それ以外はみんなと同じである。

⇒難聴ということについて自分をきっかけとして知ってもらうことができた

ろう者とのコミュニケーション方法



将来の夢は「特別支援学校の教員になること」「障がいのある子どもとない子どもが交流することのできる機会、地域の人と関わる機会をたくさん作り、様々な意見や価値観に触れることで、偏見をなくし、多様性を受け入れることができる子どもを育てること」と語ってくれました。

委員からは、「〇〇さんが浜高生や地域の方と関わり、難聴の人との関わり方を知ってもらえる機会を作ったことは素晴らしい。特別支援学校の教員になりたいという夢を叶え、障がいのあるなしに関わらず、みんなが笑顔で生活していけるような先生になってほしい。」と感想をいただきました。

□意見交換

委員から、「コンビニでは、耳の不自由な人に向けた指差しボードが広がっている。

レジで“聞こえにくいです”と指さして伝えられるものがあると良いと思っている。

難聴があるかどうかは一見わからないので、話しかけて無視されたと感じるスタッフもいるかもしれない。聞こえにくいことがわかれば、お互いに気持ちの良い係わりができると思う。浜田ろうの生徒にとって使いやすい指差しボードと一緒に考えてもらえないか。」と提案をいただきました。

生徒からは「“耳が聞こえないのですか”と急に聞かれればドキッとします。私は聞こえにくいと言えるほうですが、そうでない人もいます。指差しボードがあれば、聴覚障がいのある人だけでなく、いろいろな人が使いやすいと思う。絵が上手な後輩もいるので、みんなで考えたい。」と応えてくれました。



そのほか、インスタグラムの発信の工夫、「福祉」教育へのかかわり、交流の在り方など、たくさんの提言をいただきました。

福島会長からは、「今日のように、生徒と一緒に、共生社会を作り上げていくことが浜田ろう学校の強みや魅力です。頑張りましょう。」とまとめていただきました。